

県外派遣報告書

審判員名	大野 紗佳	所属	U12西部支部
大会名	第78回 関東高校女子バスケットボール選手権大会		
期間	2024年6月8日(土)・9日(日)		
会場	東京女子体育大学アリーナ・アリーナ立川立飛		
スケジュール			
期日	内容	場所	
6月5日(水)	審判会議	オンライン	
6月8日(土)	関東大会1・2回戦	アリーナ立川立飛	
会議 講義 内容			
<p>指名審判員の村上様、坂様、大坪様より「Help Defender」のポイントについてレクチャーいただきました。Help Defenderの判定は、以下9つのポイントを意識する</p> <hr/> <p>①誰のプライマリエリアで起きたか ②誰がそのディフェンスを一番長く見ることができていたか(Stay with the play) ③ヘルプディフェンスレベルより下にいるディフェンスをリードは把握する ④ペイント内で起きる全てのケースがリードというわけではない。ヘルプディフェンスではなく、プライマリマッチアップのレフェリングは今までと変わらずそのプライマリのオフィシャルが判定 ⑤推測して吹かない ⑥センターは引き続きセカンダリとして判定にアテンド ⑦ペイントの中に入る動きではなく、ペイントをルーズにすることでスライスアングルをとる ⑧オフェンスの肘や膝などへの判定はセンター、トレイルからのアングルが良く見える ⑨トランジションではヘルプディフェンスの定義はない。リードがまず一番手となり、リードが鳴らなかった場合にセンターがコールする</p> <hr/> <p>ペイント内の全てのコンタクトがリードのプライマリということではないので、無理なアングルから無理なレフェリングをしないように意識する</p>			
実技			
担当試合	期日	2024/6/8	男子 女子
	対戦カード	都城東 VS 高崎商業	CC U1 U2
	相手審判	CC:内藤 教子 氏(山梨県) U1:小山 愛菜 氏(茨城県)	
ミーティング内容		主任 一色 渉 氏	
<p>点差の離れるゲームの中で、集中力を切らすことなくクルー3人進められたのは良かったが、その中で吹いてしまったもの、吹けなかったものがそれぞれ目立った。ボールミートや突き出しのトラベリングに関して、最初に一本コールした後、その後誰もコールせず最後まで基準が作れなかった。点差の開くゲームでも、バイオレーションは白か黒か分からないのでクルーで共有し判定し続けるべきだった。メカに関しては、PGCでハイセンターについて共有していたので、フロントコートの高い位置でのプレスに対しローテーションがスムーズだった。一方で、2or3に対する危機感が弱かった。もっとLからヘルプをする必要があった。EOG0.5sで時計とブレイのプライマリだったが、最後まで判定できたのは良かった。</p>			
全体の感想			
<p>今回大会に参加させていただき、クルーワークの大切さを改めて感じることができました。審査ゲームということもありそれぞれ挑戦したいことやアピールしたい部分があったかと思いますが、担当させていただいたゲームを問題なく始めて終わらせることの重要さをクルー間で共有できていたことが、ゲームを円滑に進められた要因だと考えます。</p> <p>また、大会2日目を見学させていただいた中で、上級同士のコミュニケーションの取り方はとても勉強になりました。アイコンタクトの多さや、クルーの心情を汲みとった笛の吹き方、ベンチへの声の掛け方など常に相手を「慮る」ことでゲームが良い方向へ進んでいくのだと感じました。</p> <p>最後になりましたが、今回の派遣にあたり、大変お世話になった東京都バスケットボール協会の皆様、また今大会へ派遣してくださいました眞榮喜審判長をはじめとする埼玉県協会の皆様と、日頃活動でご指導くださる皆様に心より感謝申し上げます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。</p>			